

施策 5 1 3

地域コミュニティのなかで、
外国人にとっても暮らしやすい環境を
つくる

令和 8 年度 施策評価シート

基本目標	V 区民と区が協働で「すみだ」をつくる
政 策	510 コミュニティの輪を広げ、協働によるまちをつくる
施 策	513 地域コミュニティのなかで、外国人にとっても暮らしやすい環境をつくる
施策の 目標	異なる文化や生活習慣、価値観等を認め合う多文化共生のまちが実現し、外国人にとっても暮らしやすいまちになっています。

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「やさしい日本語」による情報発信数（件）				
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	R2
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	43
	R3	R4	R5	R6	R7
目標	—	—	—	—	70
実績	—	—	—	—	13

指標名	「通訳・翻訳ボランティア」登録者数（人） ※ 2 年に一度更新あり。令和 7 年度更新				
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	R2
目標	50	50	60	70	80
実績	67	47	63	43	47
	R3	R4	R5	R6	R7
目標	80	90	90	100	100
実績	40	57	47	50	40

2 目標と現状（実績）についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
外国人住民数は増加傾向にあり、令和8年4月現在では17,753人となり、区民の約6.1%を占めています。また、国籍も様々で、令和8年1月現在では、約100ヶ国の住民がいます。 その中で、多言語での対応は難しく、外国人住民が日本語を習得する支援及び外国人にもわかりやすい日本語でコミュニケーションをとる必要があります。	R5	6,007
	R6	6,588
	R7	6,288

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	一定の事業実施は取り組んでいるものの、対象者（外国人住民）に対して、情報発信などの、広報等の工夫が必要である。

4 今後の施策の運営方針

施策の戦略的方向性	
☐	(1) 優先的に資源投入を図る
☐	(2) 現状維持とする
☒	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る
☐	(4) 資源投入の縮小を図る
上記の判断理由	
外国人の日本語学習の場である日本語ボランティア教室では、ボランティア数や活動場所が不足している現状があるため、養成講座の実施により新たな担い手の確保や新規教室の立ち上げなどを進めていく必要がある。また「やさしい日本語」の情報発信は、発信方法含めて再検討する必要がある。	
今後の具体的な方針	
外国人にとって暮らしやすいまちを実現するためには、言語面のサポートが不可欠である。そのため、日本語学習の場で活動する「日本語ボランティア」の養成等を行っていくとともに、現状に応じた施策を検討するため教室へのヒアリング及び学習者へのアンケートを実施する。	

5 この施策に係る事務事業

番号	事務事業名	主管課	決算額(A) (千円)	人コスト(B) (千円)	総事業費 (A+B) (千円)	評価結果
1	多文化共生事業費	文化芸術振興課	1,073	5,215	6,288	改善・見直しのうえ継続

令和8年度 事務事業評価シート

No. 1

施 策	513 地域コミュニティのなかで、外国人にとっても暮らしやすい環境をつくる					
事 業 名	多文化共生事業費					
主管課	文化芸術振興課				電話番号（内線）	5 4 5 6
目 的	増加する外国人住民に対し、日本語教育等の支援を行い、外国人にとって暮らしやすい環境を創出している。					
対 象 者	在住外国人					
根拠法令 関連計画						
実施基準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤職員 2	
事業内容	国籍や民族などが異なる人々と互いの文化的差異を認め、外国人が地域社会の一員としてともに生きていく、多文化共生社会の実現に資する事業を実施する。 （令和8年度 事業予定） 外国人のための防災ツアー 日本語ボランティア養成講座 外国人の日本語発表会 「やさしい日本語」の普及啓発 通訳・翻訳ボランティア制度の活用による区刊行物等の多言語化					
経 過	開始年度	平成18年度			終了予定	
	平成30年度まで、墨田区国際化推進クラブと協働で、在住外国人支援に資する事業を実施したが、令和元年度より、日本語ボランティア養成講座を区直営で実施するなど、多文化共生事業の大幅な見直しがあった。 （経過） 平成18年9月 墨田区国際化推進クラブ（SIPC）設立 ⇒区からの補助金を原資として、外国人のための日本文化体験、日本語ボランティア養成講座、すみだまつりへの出展事業等を実施 平成31年3月 墨田区国際化推進クラブ（SIPC）解散					
議会質問 の 状 況	令和8年2月27日（予算特別委員会） 行政主体で初期段階の学習支援を実施する方針や、コーディネーターの配置など具体的な体制について伺いたい。また、来年度に向けて、補助金を活用した事業拡充や新規の取組等を積極的に行っていただきたい。 （答弁）既存の教室の支援を重視した方針を取り組んでいくとともに、コーディネーターは、本区の担当職員がその役割を担うことで、会議等でほかの自治体とのつながりを持ち、区の課題解決につなげていく。補助金は来年度活用ができるように、今現在、都と協議を進めているところである。					
そ の 他 特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 令和8年10月～12月 日本語ボランティア養成講座 令和8年 9月 6日 外国人の日本語発表会 令和8年11月15日 外国人のための防災ツアー					

予算・決算額推移（単位：千円）		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
予算現額（令和8年度は当初予算）		1,009	1,019	1,037	1,226	1,273	1,520
A. 決算額（令和8年度は見込み）		963	930	900	1,096	1,073	1,520
財 源	国	0	0	0	0	0	0
	都	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0
一般財源		963	930	900	1,096	1,073	1,520
執行率（％）		95.44％	91.27％	86.79％	89.4％	84.29％	100％
B. 人コスト		5,278	6,317	5,107	5,492	5,215	
総事業費（A+B）		6,241	7,247	6,007	6,588	6,288	
予算書P（令和8年度）		P117 3-1		執行実績報告書P（令和7年度）			

主な予算・決算の内訳（単位：千円）					
令和6年度（決算）		令和7年度（決算）		令和8年度（当初予算）	
節	金額	節	金額	節	金額
委託料	1,064	委託料	1,032	委託料	1,232
報償費	29	報償費	22	需用費	125
役務費	4	需用費	11	報償費	100
		役務費	10	使用料及び賃借料	47
				役務費	16
概 要		概 要		概 要	

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標					単位	
		最終目標値	目標年度		基準年 (H28)	H29	H30	H31
				目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標						
		実績						
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		事業の性質上、数値指標を設定しない。						
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	外国人住民数				単位	
		最終目標値	目標年度		基準年 (H28)	H29	H30	H31
		15,000	令和7年度	目標	11,500	11,850	12,200	12,550
				実績	11,530	12,056	12,543	12,942
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	12,950	13,300	13,700	14,150	14,550	15,000
		実績	12,303	11,923	14,225	15,960	17,035	17,753
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		外国人にとって暮らしやすい社会が実現すれば、結果として外国人住民数の増につながってくると考えられるため、外国人住民数を活動指標とした。（年3%増見込）						

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	国籍の多様化により、多言語での対応は難しくなっているため、引き続き、在住外国人日本語を習得するための支援を行うとともに、実態を把握したうえで、状況に応じた施策を検討するために日本語ボランティア教室へのヒアリング及び学習者へのアンケートを実施する。

課題・問題点
学習を希望する外国人のニーズに対して、日本語ボランティア教室のボランティア数や活動場所の確保が追い付いていないため、養成講座による新たな担い手の確保や新規教室の立ち上げ支援などを進める必要がある。